

## 【優秀賞】

タイトル：一人一人の個性と笑顔

生徒氏名：宮野桃

私はボランティア部に所属しています。ボランティア部と言ってもゴミ拾いなどをしてしているわけではありません。いろいろなお祭りや保育園、施設を回って大道芸をしています。一人一人が練習した皿回しやボールなどを見てもらうのです。

毎年行っている障害者の施設では、急に大きな声を出したり、騒ぎ出したり、終始手を叩いていたり、技を見ないで天井をずっと見つめている子がいます。去年私が一年生で初めてこの施設を訪れた時は、その子達にどう接したら良いのかが分かりませんでした。

明治以降初めて盲学校やろう学校が開設されました。この時代はまだ学校に行かない人もたくさんいた頃なので、そのような学校を造ろうという事はとても注目されたはずですが、でも、障害のある人達は、その施設の中だけで暮らしていたそうです。

ひどい事に、奇形などの障害がある人は、見世物にされていました。何か芸をやらされ、それを見ている人から見物料をとる。辛い思いをした人がたくさんいた事でしょう。人間とは、時にとても恐ろしく感じます。

障害のある人もない人も社会に参加して、共に生きていくという考え方ができたのは、ほんの数十年ほど前からだなんて知りませんでした。

少しずつ認められてきた障害者の権利。障害があるからといって、学校にすら行けなかった子供達が、養護学校や盲学校、ろう学校に行けるようになっただけでも素晴らしい事だとは思いますが、それまでに相当な時間や思いがあったと思います。

みんな人間として生まれてきて、その人間同士で差別しあうなんて事はおかしな話です。みんな人間、みんな一緒に暮らせる社会にしていかなければなりません。まだまだ障害について正しく理解してもらえなかったり、差別意識や偏見があります。私もテレビ等で見て、「目が見えなくてかわいそう。」とっていました。でも障害者の人達にとって、その「かわいそうな人」として見られる事がとても辛いのだという事が分かりました。そうなのです。障害はひとつの個性なのです。誰にでも苦手な事はあるのですから。

オリンピックと同じ年に同じ場所で開催されるパラリンピック。素晴らしい感動を与えてくれます。車いすでのバスケットボール。あの腕の筋肉には驚きます。腕だけでボールを操り、車いすまで動かすのですから。スキーや水泳などの選手の人も、私達には計り知れない程の努力をしているのでしょう。

パラリンピックを見ていると、健常者と同じです。足のかわりに車いす、目が見えないかわりに音が出るボールを使用するサッカーなど、いろいろな競技に出場できるのです。パラリンピックで素晴らしい活躍をした選手がたくさんいる事を忘れてはいけません。

こんな話を聞いた事があります。周りのみんなは、その子が落ち着きがなくみんなと同じ事をするのが苦手で、何かあるとすぐ大きな声で怒ってしまう事があったので、何らか

の障害があるのではと思っていたらしいのですが、母親は断固として認めなかったそうです。私はそれを聞いて、とても複雑な気持ちになりました。母親の気持ちも分かる気がするのです。自分の子供が障害者だと認めたくない。でも今の私は、障害がある、ないに関わらず一人の人として見る事ができるようになったので、認めてあげるべきだと思うようになりました。そうしたら、その子を周りのみんなとサポートできると思います。その子の個性だと受け入れ、理解する事によって、周りの人達も、親だって楽になるのではないのでしょうか。自分の子供が障害者だという事は、決して恥ずかしい事ではないのですから。

残念ですが、まだまだこのような障害について、知らない事や分らない事がたくさんあります。ふれあう機会も、ほとんどとっていいほどありませんから、頭では分かっているけど、自分はちゃんと理解できるのだろうかと思ってしまいます。

私はまた来年、ボランティア部のみんなと障害者の施設へ行きます。毎年私達がくるのを待っていてくれる人達がいるのです。あのキラキラした笑顔に会えると思うと、今からとても待ち遠しいです。来年の最後の公演では、施設のみんなと少しでも交流ができればいいなと思っています。